第1 決算審査特別委員会（第2日目）

H28.9.8（木）10：00～

第二委員会室

開 会 9：59

- 委員長 皆さん、おはようございます。
- 委員長 **委員動静報告**
- 委員長 ただいまの出席委員数は9名であります。
これより本日の会議を開きます。
- 委員長 **労働費**
- 中川部長 労働費の説明を求めます。
委員長 （労働費について説明する。）
委員長 説明が終わりました。
- 館 内 これより質疑に入ります。質疑ありますか。
- 栗木主任級主事 5款1項1目、備考欄の中空知地域職業訓練センター協会の負担金のことについてですが、パソコンなどの講座の募集については周知されていると思いますが、こちらの人員は満たされていたのか伺います。
- 委員長 中空知地域職業訓練センター協会が実施しているパソコン講座につきましては、定員135名に対し60名が受講したところでございます。また、札幌高等技術専門学院から委託を受け実施しているパソコン講座の人員につきましては、定員100名に対し65名の方が受講しているところでございます。
- 委員長 ほかに質疑ありますか。
- 委員長 （なしの声あり）
- 委員長 ないようですので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。
- 委員長 （異議なしの声あり）
- 委員長 そのように決定いたします。
以上で労働費の質疑を終結いたします。
- 委員長 **商工費**
- 中川部長 商工費の説明を求めます。
委員長 （商工費について説明する。）
委員長 説明が終わりました。
- 館 内 これより質疑に入ります。質疑ありますか。
- 今 係 長 170、171ページの7款1項2目、備考欄の滝川観光ガイドアプリケーション構築について、スマートフォンやタブレットで使用できるアプリということで、平成27年度の総ダウンロード数について伺います。
- 委員長 平成27年度のダウンロード数につきましては、ランターンフェスティバルの紹介を中心といたしました1次リリース段階でのダウンロードが大半を占めております。3月末時点で382件でございました。なお、3月末に滝川の観光情報や紹介動画など全ての内容についてリリースがされまして、その後のダウンロード数も段階的にふえている状況でございます。参考までに8月末現在では614件のダウンロードがされている状況でございます。
- 委員長 ほかに質疑ありますか。
- 副委員長 イベントの関係について質疑をさせていただきます。169ページのたきかわ観光協会の補助金、間接的に補助しているという意味で伺いたいのですが、平成27年度のさまざまなイベントにおいても、菜の花まつりを初め多くのイベントが

開催されました。市の所管職員の皆さんや観光協会関係者の皆様の努力に心から敬意を表した上で、近年の市内イベントの参加者はふえていく傾向にあると思います。

来場者が多くなればなるほど対応にかかわる新たな課題が出てくると思われますが、私が客観的に見て、どうしても人員不足ではないのかなということは否めません。事前や当日、そういう準備や運営体制も含めて多くのボランティアスタッフが必要なのかなというふうに感じます。市民の協力意識が高められる仕掛けづくりが必要ではないのかなと思いますので、お考えについて伺いたいと思います。それと、その他、昨年度の各イベント等を通じて、人員不足以外の課題等があれば伺いたいと思います。

今 係 長

滝川市内には現在、集客効果の高いイベントというのは幾つか存在しているわけですが、特にたきかわ菜の花まつりにつきましては、市内だけではなく、道内外や海外からもお客様が訪れるようになり、去年は菜の花ウイーク期間中に過去最高の12万3,000人ものお客様数を記録したところでございます。ご質疑にもありまして、観光客の増加に伴いまして必然的にイベントを支えるスタッフは増員せざるを得ず、現状、そのスタッフを募ることに大変苦慮しているところでございます。現在は、主につう・フレンドの皆さんや國學院短大の学生、滝川西高校生の皆さんなどで積極的にイベントを支えていただいております。そのほかにもシルバー人材センターや警備会社に依頼している状況にあり、これらスタッフの協力なしではイベントは成り立たないと言っても過言ではないと思っております。

菜の花まつり以外にも、たきかわ納涼盆踊り花火大会ですとか、たきかわ紙袋ランタンフェスティバルなど民間主導のイベントもございますが、これらのイベントにつきましても、例年、スタッフ探しに大変な苦労をされている状況にございます。現在、他の自治体では、イベントを支える市民ボランティアを募集して登録、派遣するような取り組みを行っているところもあり、滝川市においても同様の手法でボランティアスタッフの安定した確保ができるよう検討しているところでございますので、引き続きお力添えをいただければと思っております。

副委員長

お尋ねしたその他の課題というのは、特段申し上げることはないということでしょうか。

今 係 長

その他の課題は、細々たくさんございます。当然、毎年、経費につきましても限られた経費の中で、これだけ多くの来場者数を満足させるようなイベント構築という部分では大分、経費についても本当に限られていますので、その辺については苦慮しているところでございます。

あとは、観光客のマナーというところの対応も年々ふえてきているところでございますので、そういったところを二次的に我々がどうやってサポートしていけるのかということについては、日々イベントを行うに当たっては苦慮しているところでございます。

委 員 長

ほかに質疑ありますか。

井 上

先ほどの質疑もありましたけれども、課題というか、丸加高原健康の里の総経費2,300万円の予算ということですが、年々菜の花観光とかいろいろとふえているのですけれども、丸加高原健康の郷のワイファイとかそういうものの環境が非常に悪いと観光協会のほうから聞いていたのだけれども、その辺はこ

- の年に何か改善されたものがあるのですか。
- 今 係 長 丸加高原のワイファイですけれども、現状、電波がかなり悪い状況になっておりまして、インフラ整備をするに当たってもかなり高額になることが見込まれることから、現状としては厳しいかと思っております。
- 委 員 長 ほかには質疑ありますか。
- 三 上 169ページ、企業誘致の推進に関係するのですが、年間107件、延べで企業訪問されたと書かれております。それで、確かに一定程度の成果は見えつつあるのかなという気はしますけれども、この107件というのはどういう分野で、6次化に向けてとかということに当たっているかと思うのですが、戦略的に絞り込んでいかなければなかなか成果というのは出ないと思うのですが、この年はどのようにされてきたのか伺いたしたいと思います。
- 壽崎係長 企業誘致の訪問先の部分ですけれども、年、延べ107回ということで回数的には出ております。訪問先としましては、現在企業誘致という部分で滝川においては、食産業という部分に重点を置くと考えています。国と道もあわせて食産業の企業誘致のほうにも今、力を入れているところでございます。そういった中で、新日本スーパーマーケット協会との連携もありますし、これまで築いてきたネットワークもございまして、食産業が重点分野というところでは捉えています。
- また、そもそも食産業、企業ではなくても、そのほかの例えばエネルギー関係の企業でもありますけれども、そういったところでも今、農業参入ですとか、そういった部分も考えている企業もございまして、そういったところをネットワークを太くしながら、信頼関係を築き上げながら、企業誘致につながればという考えで動いているところでございます。
- 委 員 長 ほかには質疑ありますか。
- (なしの声あり)
- 委 員 長 ないようですので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。
- (異議なしの声あり)
- 委 員 長 そのように決定いたします。
- 以上で商工費の質疑を終結いたします。
- 所管入れかえのため、若干休憩します。再開は10時25分といたします。
- 休 憩 10:15
- 再 開 10:26
- 委 員 長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。
- 農林業費**
- 委 員 長 農林業費の説明を求めます。
- 中川部長 (農林業費について説明する。)
- 委 員 長 説明が終わりました。
- 館 内 これより質疑に入ります。質疑ありますか。
- 156、157ページの6款1項2目の備考欄の鳥獣被害防止対策協議会補助金がありますけれども、平成27年度、鹿対策のことについて聞きたいのですが、主にどのような対策をされたのか伺います。
- 続いて、158、159ページ、6款1項2目の担い手育成に要した経費で、新規就農者は何名か、またどのような品目を作付されたのか伺います。
- 小谷係長 鹿の対策についてお答えいたします。ご質疑のエゾシカについては被害も大き

く、農家の方にとって大変深刻な問題であることは認識しております。滝川市では鳥獣被害防止対策協議会を設置して対応しているところがございますけれども、エゾシカに対する対策としましては、年間を通して行っている緊急捕獲、それと秋から初冬にかけて行う一斉駆除を年2回行っております。いずれもハンタークラブに依頼して、猟銃による駆除を行っているところです。

それと、鳥獣被害防止対策協議会ではありませんが、市独自の補助メニューで、元気な農業づくり補助金というものの中に電牧柵の設置に対する補助金がありまして、予算に限りはありますけれども、平成27年度は2件の方がそれを利用して電牧柵を設置して、鹿の対策を行っているところです。

本所係長

新規就農者の人数と作付品目について答弁いたします。平成27年度ですが、6名の新規就農者がありまして、うち一組が夫婦での就農となっております。品目ですが、水稻プラス畑作が2件、畑作のみが2件、水稻プラス肉牛ということで1件、合計5件になりますが、先ほど申し上げました夫婦での新規就農が1件ありますので、6人で5件の営農類型となります。

委員 長
三 上

ほかに質疑ありますか。

165ページの林業振興に要した経費ですが、この中で健康な森をつくるのに剪定とか植樹とかということをしていると思うのですが、いわゆる木と木の間の日が入るような、そういうようなこともされているのだと思うのですが、平成27年度はどのようなことを行っているのか。また、災害が多いので、森林が見直される時期であると思うのですが、その点についても伺いたいと思います。

亀田課長補佐

健康の森づくりというのは主に市民植樹祭を対象としていまして、平成27年度は12団体70名が参加しまして、0.2ヘクタールでオニグルミ、ナナカマドなどを植えております。そのほかとしましては、過去に行った市民植樹祭の草刈りを主にやっております。石狩川ルネサンスの森の市民植樹祭が主な活動となっているところです。木の剪定とかは特に行っておりません。草刈りのみです。

三 上

それでは、今、本当に森が荒廃しているというか、傷んできている状況なので、そういう伐採だとか剪定というのは予算の見積もりがされているのかどうかかわからないですけれども、これを受けて、今後という話になったら決算ではないと言われるかもしれませんが、どのような思いを持っていたのか伺いたいと思います。

和田課長

今後も含めてどのように考えているのかということだと思っておりますけれども、現在、植樹して育ってきているところは、まだ樹木もそんなに大きく育っていないということもありまして、草刈り程度の管理ということで対応しております。今後大きくなってくれば、必要に応じて間伐を行ったりして適正な森林に育っていくような管理は、森林組合等とも連携しながらしていくと考えております。

委員 長
山 本

ほかに質疑ありますか。

まず、農業委員会費でお伺いします。費用には直接は関係ないのですが、日ごろの農業委員会の活動の中で、当然今、農業情勢の中で担い手に農地の集積が非常に進んでいるわけでありまして、ちなみに昨年度の農地のあわせん件数と担い手にどれくらい農地が集積したのか、データをお持ちでしたら、平成27年度分をお伺いしておきたいのがまず1点。

それと、もう一点は、先ほど館内委員もお聞きになりましたけれども、鳥獣対

策の中で電牧柵の実績が2件ということで答弁をいただいたわけでありまして、実際には何件ぐらいの希望があつて、どのくらい要望に応えられたのか、また被害の総額等をきちんと把握されていたのかどうかだけ確認をしておきたいと思ひます。

中川事務局長

あつせんの数でありますが、事務概要の171ページのほうを開いていただきたいのですが、こちらのほうに所有権移転（あつせん）ということで、2の農地処理状況関係のところの数が載っております。数としましては29件、合わせて行つておまして、あつせんが成立しているということになります。ほとんどが、担手というよりは、高齢化が進んでおまして、そろそろ農業をリタイアしたいということで、実際に相対で行つていた方に対してあつせんをしているというのがほとんどという状況になっております。

小谷係長

2点目の鳥獣の関係で、希望の数ということだったのでありますが、平成27年度につきましては3件相談がありまして、そのうち2件が実施できて、もう一件につきましては今年度になってから設置できたところでありまして、それと、被害の総額は把握しているのかということだったのでありますが、毎年農協を通じて聞き取り調査を行つておまして、ちなみに平成27年度は被害がふえてしまったのですが、被害額が総額で311万8,000円、面積については9.8ヘクタールほどということで聞き取りを行つて、把握しているところでございます。

委員 長
東 元

ほかに質疑ありますか。

地ビールの関係でお伺ひしたいのですが、まちのスーパーにも商品展示がされて、随分頑張つて生産されていると思うのですが、年間の生産販売量についてお伺ひします。

壽崎係長

ビールの販売についてですが、企業で滝川のこちらの工房で出しているビールの販売という数字につきましては把握しておりません。ただ、グリーンズで製造された部分ということでの数値につきましては、売上げのほうで約630万円程度の売上げがあるということで聞いております。

阪本課長

ただいま大雪ビールの製造状況の資料を持ち合わせておりませんので、後ほど報告させていただければと思つておりますがよろしいでしょうか。

委員 長

それでは、後で報告願ひます。

井 上

ほかに質疑ありますか。

159ページ、19節、負担金補助及び交付金で約1,100万円ぐらいの補助金残があるけれども、この関係で、各種の申請が非常に少なかったということで、3分の1ぐらいだと思ふ。それで、どういうところにどういう問題点があつて、これだけの金額になったのか、実態的にどうなのか、もう少し詳しく説明してください。

もう一つ、このページで畜産試験場跡地利用に要した経費として、少額ですが、2万7,000円何がしとあるのだけれども、今それぞれ夕張ツムラ等入っているのだけれども、いわゆる滝川市がかかわる費用というものの中で頭出しをしているのだけれども、これはどういう種類の費用なのかお伺ひします。

壽永課長補佐

1点目のご質疑でございます。不用額1,098万3,687円の主な理由ということで先ほど中川部長から説明させていただきましたが、もう少し細かく言いますと、新規就農者支援助成金につきましては371万5,080円、不用額が生じました。これにつきましては、対象となる新規就農者があられなかったということが、ま

ず1つあります。

次に、環境保全型農業直接支払交付金252万9,800円、不用額として出ました。これにつきましても、当初予定されていた団体が取りやめたことなどによって不用額が生じたところでございます。

もう一つ、主なところで言いますと、機構集積協力金、これにつきましても予算で210万円、3戸の農家を見込んでいたのですけれども、こちらのほうも周知して、PRもしたのですが、結局のところ一件も対象となる方は出られませんでした。そういったことで210万円、不用額となりました。ほかにもいろいろあるのですけれども、大きなところではそういったところでございます。

畜産試験場跡地利用に要した経費でございますが、2万7,438円、決算額ということで生じております。内訳としましては、4回ほど出張、打ち合わせ等で道庁のほうに行ったりとか、そういった旅費の部分で2万100円、あと事務用品を購入しました消耗品として6,264円、あとコピー代としまして手数料の1,074円、計2万7,438円という内訳でございます。

和田課長

畜試跡地利用に要した経費ということで、少額な決算額になっております。畜産試験場跡地につきましても、道庁とも連携しながら、跡地を利用させていただく企業の方、要望等あれば随時ご紹介していると。市も中に入っているいろいろな仲介をしながらご紹介をしているという現状にあります。その中で今回、この経費、少額ですけれども、道庁のほうとさまざまな打ち合わせをしたりするときの経費ということで執行させていただいております。

ただ、ではそれ以外に何か、いろいろとやっていないのかということになりますと、現在は産業振興課のほうで所管をさせていただいているのですけれども、企業誘致とかそういった際にいろいろとご紹介をしたり、あっせんといひましようか、ご紹介をしているというような現状であります。

井 上

一生懸命やっていると思うのだけれども、先ほどの壽永課長補佐の答弁の中で、いわゆる環境型の新しい取り組みだと思うのだけれども、それぞれの例えば水環境とかいろいろなところでそういうものの取り組みがあると思うのだけれども、そういう中で、滝川市が主体的にやっているものなのか、どういうところに問題があつてこういう形になってきたのか。

もう一つは、機構集積型の団体が取りやめということなのだけれども、もともとそういう要素があつたのか。せっきくの補助金が生かされないで、3分の1も返すような形のものというのはどうなのか。なかなか努力不足でできなかったのか、もともとそういう要素があつたのか、そのあたりどのように分析しているのか伺います。

本所係長

環境保全についてご説明申し上げます。環境保全というのは国の制度でありまして、それぞれ有機型、化学肥料5割減、農薬5割減、これは道の基準ですけれども、それに沿いまして、減らして取り組むと。その分をいわゆる有機堆肥などで補うということですが、どうしても化学肥料に比べて収量が減ってしまうという部分もあるものですから、なかなか取り組むものが出てこない。予算を立てた段階で事前に調査をしたのですけれども、やはり、収量が少なくなるので取り組めないという方もいらっしゃるしまして、事前の調査よりも少ない結果となっております。

和田課長

負担金補助及び交付金、いろんな事業が重なつてと申しますか、不用額が大きくなっております。それぞれの内訳は、先ほどご説明させていただいたとおり

です。一番大きなものでいえば、新規就農者の支援助成金、当初の予算では423万円計上していたところですが、執行額は30万円で終わっているということです。

周知、PR不足でないかというご意見もあるかと思いますが、新規就農者の支援助成金、新規就農者の募集、我々も札幌へ行ったり、いろんなフェアに参加しながらやっておりますし、ホームページにも載せて周知しているところですが、ご相談がありますけれども、なかなか就農に至るという方は、残念ながら少ないという状況にあります。その中で、予算計上時には、これは我々もしっかりPRしながら、活用していただける制度ですので、しっかりとした予算を組んでいるところですが、残念ながら利用をいただいている方があられなかったというようなことで不用額が生じているということになります。

それと、環境保全型農業の支払交付金につきましても250万円ちょっとの残額が発生しておりますが、これは先ほど説明させていただいたとおりです。

あと、機構集積協力金、農地の出し手の方に対して国から支援していただける制度になっておまして、これもホームページ等で周知、もちろんしております。滝川の場合は、農地の受け手の方はいらっしゃるのですが、なかなか出し手の方がいらっしゃらないと。この協力金については、出し手の方に支援をする、農地をお貸ししますという出し手の方に対しての支援ということになっておまして、予算計上させていただいたのですが、これも実際に出し手として出していただいて協力金を受けるといった方がいらっしゃらなかったということで残額が生じたということです。

今後もそれぞれの事業、PR、周知には努めていきたいと考えておりますし、活用していただければなと思っておりますが、当面はPRを続けさせていただくというようなことになろうかと思っております。

井 上

環境型のほうはわかりました。

それで、機構集積協力金の関係だけでも、これも非常に新しいやり方で、全国的に展開していて、これは農業委員会との関連もいろいろ出てくるのでないのか。なかなか農家にとっては新しい取り組みなものだから、相当PRしなければならないし、農政課だけでやれるようなことではないのではないか。その辺の連携はどのようになっているのか伺います。

中川部長

ご質疑の機構集積協力金につきましては、北海道農業公社のほうで所管しています中間管理機構という、農地を一旦預かる機構が生まれました。それは、全国的な耕作放棄地を少しでも減らすという国の政策で新たに、設立はいつか忘れられたけれども、どちらかという農地を出したがる本州のほうでの中小農家、なかなか土地を出せば返ってこないという昔からの、慣習ではないですけれども、そういった農地を一旦出してしまうとなかなか利用できなくなるというようなおそれがある、それを防ぐためになるべく出しましょうと。それで、出した方にはお金を支払うというようなことが今展開されているのですけれども、北海道の場合は、農業委員会でのあっせん件数もごらんいただいたと思っておりますけれども、農業委員会による地域のあっせんというのが活発に行われているので、今のところ滝川市ではそれほど農地を出したがるために耕作放棄地がふえるとか不耕作地がふえるというような状況にないものですから、この機構集積協力金の利用というのは北海道ではなかなか、なじまないと言ったらあれなのですけれども、そういった背景があるものですから、実際滝

川市としてももしあらわれた場合ということで予算化はしておりますけれども、今のところそういった、地域で話し合いがまとまらなくて、不耕作地あるいは放棄地になりそうな農地というのがないということで、この制度は今のところ活用されていないということで、万が一のために予算化をさせていただいているという状況でございます。

委員 長 それでは、先ほど東元委員から質疑がありました件で、壽崎係長から答弁を求めます。

壽崎係長 先ほどの東元委員からの質疑の答弁になりますけれども、滝川クラフトビール工房で製造した分についてですが、販売するときにはたと瓶の別というものがあるのですけれども、その詳細については今把握はしていないところですが、製造した分を瓶換算にいたしますと、約3万2,000本という数字で報告を受けております。

委員 長 ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員 長 ないようですので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員 長 そのように決定いたします。

以上で農林業費の質疑を終結いたします。

ここでお諮りいたします。

午前の日程が全て終了しましたので、午後の日程を繰り上げたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員 長 それでは、午後の日程を繰り上げますが、所管の入れかえのため暫時休憩いたします。

休 憩 10:59

再 開 11:01

委員 長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

土木費

委員 長 土木費の説明を求めます。

大平部長 (土木費について説明する。)

委員 長 説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑ありますか。

山 本 176、177ページ、道路維持の委託の関係でお伺いをいたします。毎年この予算を使って、多分、道路の組合のほうに道路の穴があいているところの見回りと、それと舗装が傷んだら再舗装をかける委託をされているお金、側溝も入っていると思うのですけれども、昨年も含めて何人ぐらいの方が道路を見回りされていて、この中で、直接道路の穴を埋めたお金の部分と道路側溝の部分と、それと表面を張りかえる部分とあると思うのですけれども、毎年どのぐらいの推移でなっているのか。また、結構道路の穴の補修が市民からの要望に追いついていないと思うのですけれども、見回りの人数が果たして足りていたのかどうかもあわせてお伺いをいたします。

辻本係長 道路の穴埋め、維持管理についてのご質疑に対して答弁させていただきます。道路の穴などの異常箇所の発見については、委託業務契約の中で2名体制で一班のパトロール体制にて市内巡回を行っております。また、今年度からですが、

土木課職員12名にて班体制を組み、おおむね1カ月で市内全域を点検できるようにパトロール強化を実施しております。その際に、委託業者、職員ともに、緊急性のある危険な穴については、簡易的な袋合材で危険防止に努めているところでもあります。しかしながら、委員のお話のとおり、市内には老朽化した舗装の箇所が多数点在しているのも認識しており、大変苦慮しているところでもあります。そんな中、今後も事故防止を最優先に考え、維持管理に努めていきたいと思っております。

それで、平成27年度の加熱合材、業者による穴埋め補修ですが、27年度実績で約700トン。穴埋めの深い穴とか浅い穴もありますので、トン管理としております。実績としては、約2,280万円が加熱合材による舗装の補修費です。それと、全面的に舗装の表面にかける舗装オーバーレイの実績ですが、交付金と単独事業合わせて、延長で1,682メートル、9路線の補修を行っております。

委員長

ほかに質疑ありますか。

三上

177ページ、残土集積場管理業務委託料がありますが、約1,000万円ですが、どういう業務をされているのか伺います。

近藤課長補佐

残土管理委託業務につきましては、市内の公共工事に伴いまして残土が発生します。それを滝川市の西8丁目の公共残土捨て場に搬入しまして、その中で受け入れを行いまして、残土の敷きならしや管理を行っている業務でございます。これは委託を行いまして、常駐職員1人、機械、バックホーを置きまして、ブルドーザーで敷きならしと残土の山を形成する作業を1年間通してやっております。

三上

その残土は、再処理というか、再活用というのはされているのですか。

近藤課長補佐

残念ながら今のところ工事の流用ということは余りないのですが、市民の方に無料提供させていただきまして、運搬積み込み費は負担していただきますが、残土については無料で提供という形で、今、制度として行っております。

委員長

ほかに質疑ございますか。

井上

185ページ、街路事業費の関係の備考にいろいろ載っているのだけれども、駅前広場グライダー設置業務関係とか、委託料、その下に太陽光パネルの設置委託料183万円。それから、駅前造成工事、それからその下の太陽光・風力発電の設置工事、この中身の概略をもう少し教えていただきたい。それで、これの補助メニューが、ふれ愛の里だったら環境省の関係だと思いましたが、これはどちらの補助メニューだったのか、もう少し教えてください。そして、電力の補給というか、つくった電力が実際にどのように使われようとしているのか、使われたのか、その点も含めて伺います。

高橋係長

まず、駅前広場のグライダー設置委託業務ですが、こちらのほうは、駅前広場内のスペースにグライダーの実機をモニュメントとして設置するため、設置に必要な基礎や架台の設計、構造計算などを行う業務でございます。

そして、2番目の駅前広場太陽光パネルなど設置、設計につきましては、駅前広場に新たに設置される駐輪場上屋の屋根に太陽光パネルを設置いたしまして、自家発電を行うことを目的として、太陽光パネルの架台及び太陽光発電システムなどの設計業務となっております。

3つ目の駅前広場周辺用地造成工事ということですが、こちらのほうは、駅前広場に隣接する市有地で、平成27年の11月1日より滝川駅パーク&トレイン南駐車場の一部として運用が開始された土地の造成工事となっております。

4番目、駅前広場の太陽光・風力発電式街路灯設置工事なのですが、こちらのほうはいわゆるハイブリッド街路灯と呼ばれる照明でありまして、太陽光及び風力発電を行いながら内蔵されている蓄電池に蓄電して、照明に必要な電力を確保するもので、駅前広場内に2基設置しております。

井 上

2基の街路灯という答弁だったのですが、街路灯はそんなに大きな太陽光ではないように思うのだけれども、何キロワットを設置したのか。そして、街路灯を何基補填できる電気が充電されるのか。それで十分なのかも含めて、いわゆるシンボルタワー的に、滝川のエネルギー政策のシンボリックにやるのだという意味も以前聞いていたのだけれども、そのあたりのところはきちんとできているのか。

東主任技師

今回設置しました街路灯につきましては、2基設置しておりまして、年間で約150キロアワーぐらいの発電量ということで設定しております。2基に照明が2つついているということで、委員がおっしゃられたように、モニュメント的なこともありますし、中に蓄電池を内蔵しておりますので、その中で充電した中で、今設置している2基分の電気は十分確保できるというような中身になっております。加えまして、余った電気は、災害などが発生した場合に100ボルトの電源として、例えば携帯電話の充電が可能とか、そういったことで使うことが可能となっておりますので、十分満足できる発電量は確保されているものと思っております。

また、補助メニューですけれども、こちらの2基の街路灯につきましては環境省の補助金になっておりまして、100パーセントの補助になっております。

委員 長

ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員 長

ないようですので、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員 長

そのように決定いたします。

以上で土木費の質疑を終結いたします。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

あすは午前10時から会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

散 会 11:19